

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	充実した薬剤師国家試験対策の実現を指向した教育環境の改革				
研究組織	代表者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	尾上 誠良
	研究分担者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	賀川 義之
		所属・職名	薬学部・教授	氏名	眞鍋 敬
		所属・職名	薬学部・教授	氏名	石川 智久
		所属・職名	薬学部・教授	氏名	浅井 知浩
		所属・職名	薬学部・教授	氏名	森本 達也
		所属・職名	薬学部・教授	氏名	伊藤 邦彦
		所属・職名	薬学部・教授	氏名	内田 信也
		所属・職名	薬学部・教授	氏名	黒川 洵子
		所属・職名	薬学部・教授	氏名	近藤 啓
		所属・職名	薬学部・教授	氏名	原 雄二
	発表者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	尾上 誠良

講演題目	薬剤師国家試験合格率向上を指向した高度教育システムの拡充
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>医療技術の高度化ならびに多様化に伴い、臨床現場で従事する薬剤師に求められる資質に関する社会的なニーズが高まり、これに呼応して開始された6年制薬学教育のアウトカム評価に相当する薬剤師国家試験では、医療に携わる基礎的資質を評価する「必須問題」と薬剤師の必須知識を基にして薬学理論の習得を評価する「薬学実践問題」、医療現場の実務で直面する課題の解決実践力を確認する「薬学理論問題」に分けられており、高度な専門性を求める出題（合計345問）となっている。これまでに薬学部では、医療の進歩に対応できる専門的な知識・技術を有し、高い資質を身につけた薬剤師養成を目指しており、新カリキュラムに基づいた講義・演習を実施してきた。本研究課題では薬剤師国家試験の高い合格率と「質」の高い薬剤師育成を同時に達成するための教育体制をさらに充実させ、高度な教育システム改革を断行するとともに、薬剤師に求められる「知識・技能・態度」の醸成を試みた。その結果、令和5年度に実施された第109回薬剤師国家試験における新卒合格率は89.53%であり、全国平均新卒合格率84.36%を超えていた。また、既卒者を含めた本学の全体合格率は83.84%であり、こちらも全国平均合格率68.43%を大きく超えた成績であった。新卒・既卒の合格者は83名となり、国公立大学のなかでも多く薬剤師を輩出する本学薬学部の特色を堅持することができた。次年度も継続して効率的な薬剤師国家試験対策に取り組み、医療福祉に寄与できる高い資質を身につけた薬剤師を輩出する。</p>